

120年に一度!? 竹の花開花



元浜緑地 会社員の山口さん発見

尼崎

「60年に一度」や「120年に一度」しか咲かないとされる竹の花が、尼崎市元浜町1の元浜緑地で開花した。クロチク(黒竹)とみられる。稲穂のような形をした緑や茶色の花を枝いっばいに付けた珍しい姿を見せている。

県立人と自然の博物館(三田市)の橋本佳延主任研究員(48)によると、これらの周期は必ずしも研究データに基づき数字ではない

めったに見られない花を咲かせた
クロチク 尼崎市元浜町1、元浜
緑地

という。「60年で一巡りする」^{十干十二支}によるもので、非常に長いという意味でしょう」

で開花のピークを迎えるという予想もある。この数年、各地で開花が相次いでおり、フラワーセンターでも一昨年に咲いた。

県立フラワーセンター(加西市)の花の相談員松井省三さん(68)は「クロチクについては分からないけれど」と前置きした上で、クロチクの変異体で性質が近いというハチク(淡竹)について説明してくれた。

元浜緑地では、管理事務所裏のクロチクが一斉に花を開いた。5月28日、通勤途中に花に気付いたという会社員山口英樹さん(61) 神戸市東灘区 一本で見たことはあつたけど、実物をこの目で見るのは初めて」と驚く。この日は普段と違う経路を歩いた

ハチクも120年周期で、しかも広範囲で一斉に咲くとされる。直近では1908(明治41)年ごろに咲いた記録があることか

かみしめていた。(吉田敦史)

緑や茶色、稲穂のような形